経営・労務管理のエキスパート

事務所ニュース

社会保険労務士 光木事務所

労働保険事務組合
第一労務協会
京都市西京区嵐山宮ノ北町8番18
TEL. (075) 864－3336
FAX. (075) 864－3367 〒616-0025

スポット

賃上げ率5％超 33年ぶりの大幅賃上げ

カギを握るのは中小企業の動向

今年の春闘は大幅な賃上げでスタートしました。大企業の集中回答日となった3月13日。連合の第1回回答集計では賃上げ率5・28％（加重平均）と1991年以来、33年ぶりに5％を超えました。第3回集計（4月2日、2620組合）でも、大幅賃上げとなった昨年同時期を1・54ポイント上回る5・24％と高い率となっています。

また、今年の特徴は労働組合の要求に満額回答ないし要求額以上の回答を出している企業が多いことです。自動車、電機、鉄鋼など製造業の5つの産業別労働組合で構成する金属労協の3月13日の集計によると、48組合のうち、定期昇給を含まないベースアップの平均は1万4877円。そのうち87・5％の組合が要求額以上の回答を得ています。

メディアは歴史的な賃上げと騒いでいますが、今後を左右するのは4月以降から5月にかけて帰趨が判明する中小企業の動向です。全労連や中立組合など中小企業の労組などでつくる国民春闘共闘委員会が3月15日に発表した第1回賃上げ集計結果（228組合、3月13日）によると、賃上げ率は2・52％（加重平均）。4月4日の第4回賃上げ集計結果（794組合）では2・40％と、率・金額ともに前年同期を上回っていますが、連合の5・24％とは大きな開きがあります。

首都圏に店舗を持つ城南信用金庫が3月24日に公表した「第25回お客様・街の声」（3月13日～15日）では、2024年の賃上げ予定についても聞いています。取引先の多くは中小零細企業ですが、「賃上げをする予定」と回答した企業は36・0％にすぎませんでした。一方、「賃上げの予定がない」と回答した企業は30・9％。「まだ決めていない」と回答した企業が33・1％もありました。

中小企業は人手不足もあって賃上げしたいが、それも難しいなかで苦悩していることがうかがえます。価格転嫁の状況も気になります。日本の雇用労働者の70％を占める中小企業の賃上げがどうなるのか、今後の動向を注視していく必要があります。

2024
6

第6回　新技術の導入で高齢人材の負担を軽減

高齢者雇用にどう向き合うか

戦力化と生産性向上を目指して

人手不足解消の方策の一つとして高齢者雇用が注目されています。高齢者を活用していくには、新技術導入などによる高齢者の負担を減らす努力や業務の効率化も重要になります。今回は建設業界でいち早く新技術を導入し、生産性向上に果敢に挑戦している建設会社の事例を紹介します。

ICT建設機械を導入 省力化と業務を効率化

宮城県石巻市にあるT建設は建設・土木などの総合建設業を営む会社で社員は40人。うち60歳以上が14人、65歳以上の社員が8人もいます。いち早く定年年齢を65歳に引き上げ、66歳以上は継続雇用としています。

社員の仕事はパワーショベルやブルドーザーなどの建設機械のオペレーター、ダンプトラックの運転などに分かれますが、実際は1人が建設・土木作業などあらゆる仕事をこなせる多能工的役割が期待されています。それだけに高齢者の負担も大きく、現役として長く活躍してもらうには職場環境の改善が必要との認識から、これまで「安全衛生会議の活性化」「新技術の導入」「休日の確保」――の3つに取り組んできました。

新技術の導入は最新のICT（情報通信技術）機器を搭載した建設機械です。通常の建機を使った作業は現場の調査・設計・測量の後、施工を経て検査が行われますが、ICT建機を使うと、どのように施工するかという調査・設計データを機械にインプットするだけで半自動的に施工することが可能になります。しかも　通常の建機の操作は高齢者でも事故を起こさないように気を張りつめて作業をするので精神的、肉体的負担も軽くはなく、その負担をやわらげるとともに作業の効率化にも寄与します。

しかし、ICT建機を使いこなすには技能修得も必要になり、しかも新しい建機を購入するごとに機能がバージョンアップするので、その都度必要な技能を学ぶ必要があります。同社は座学と実践の勉強会を開催しましたが、最初からすんなりと運んだわけではありません。

当初はベテランの高齢社員が学ぶことを嫌がったといいます。なぜならこれまで培った自分の技術が否定されることであり、自分のスキルが機械に負けてしまうというショックもあったそうです。

しかし、同社の社長が「機械を使わなくても構わない。ただし、あなたの腕では機械のようにはできないよ。何十年の経験を持つあなたが前に進むことなく逃げてしまったら、若い人は決してついてこないよ」と言って説得し続け、しだいにやる気になっていったといいます。長年培ったスキルを否定されることほど辛いものはありませんが、〝精神的なカベ〟を乗り越えるために社長は発破をかけ続けました。ベテラン社員の背中を押し、皆がやる気になったら逆に成長も早かったそうです。

ICT建機導入後、若い世代も含めて技術を修得するスピードも早くなり、現場作業の効率化も進みました。5カ月かかる工事が1カ月短縮できるなど生産性は確実に向上しました。さらに社員全員の「4週8休」を達成しています。